

第4学年 総合的な学習の時間 学習指導案

単元名「みんなにやさしい町 浄法寺 ～広げよう心のバリアフリー～」

日 時 平成29年9月29日（金）

場 所 二戸市立浄法寺小学校 4年教室

児 童 4学年（男子7名・女子16名）

指導者 玉澤 聡子・千葉 正博

1 児童と単元について

(1) 児童について

子どもたちは、3年生の総合的な学習の時間で統合する前の浄法寺地区の学校について調べたり、盛んである相撲について理解を深めたりする学習をしてきた。地域に詳しい方に話を聞いたり、現地に出かけ調査をしたりして、昔の浄法寺の様子や地域に愛されてきた相撲について知ることができた。

また、1学期単元「発見！探検！めざせ浄法寺の自然アンバサダー」では、調べたことを市内の学校の4年生にポスターセッション形式で発表する経験を通して、相手意識をもち、まとめ方や発表を工夫する力がついてきているところである。

これまでたくさんの地域の方と関わってきており、高齢者の方とも触れ合う場面は多い。しかし、高齢者の方が生活する上でどんな苦勞をされているかということまでは知らない児童が多い。さらに、障がいのある方と接した経験がある児童は少なく、盲導犬や点字は知っているけれど、白杖は知らないなど、知識も断片的である。また、これまでの学習を見ると、インターネットで調べた内容をそのまま書き写すなど、自分が追究したい課題にとって必要な情報かどうかを考えたり選んだりする力がまだ不十分である。

(2) 題材について

本単元は、障がいのある方のお話やキャップハンディ体験、グループによる調査活動を通して、自分たちの地域に住んでいる高齢者や身体に障がいのある方などの実情や思いを知り、すべての人が安心して暮らせる町にするために、自分たちにできることは何かを考え実践していく単元である。

児童を取り巻く社会には、様々な人が生活している。周りの人々の考えや生き方に関心をもち始めたこの時期に、障がいのある人や高齢者とふれ合う体験は、他人を思う心や他人の痛みを感じる心などの共に生きるための豊かな人間性や社会性を培うことができる大切な学習だと考える。自分たちの住む浄法寺町がすべての人にとって本当にやさしい町なのかどうかを検証していく過程で、高齢者や身体に障がいのある方の立場になって、共感的に物事を見たり考えたりすることが求められる。みんなが安心して暮らせる町、社会をつくるためには誰もが尊重され、違いを認め合い、互いに助け合っていくことが大切であり、そのために、まず自分自身の「心」の「バリア」を取り除くことが大切だということに迫らせることができる。そして、児童自身が自分の生活している地域に「やさしさ」という視点で関心をもつことにより、地域のよさを今以上に知ることができ、地域に愛着をもち、町や人に対してやさしい気持ちを育てることができる題材であると考えられる。

2 指導にあたって

(1) 単元構想について

「つかむ」「みとおす」段階では、「白杖」「点字ブロック」などの写真を提示しながら、障がいのある人々の生活について知りたいことや感じたことを話し合う。また、パラリンピックで活躍している選手の姿を映像で見て意欲をもたせていく。その後、障がいのある方や介護に携わっている方をゲストティーチャー

としてお呼びし、生活で努力していることや工夫していることなどの話を聞き、現状を知る。さらに、キャップハンディ体験を通して車いすや白杖、点字を使ったり、高齢者体験をしたりと、様々な体験活動を充実させ、そこで感じたこと考えたことをもとに、一人一人が自分の課題をつかむことができるようにする。

「やってみる」段階では、学校のバリアフリー（BF）・ユニバーサルデザイン（UD）について調べ、高齢者や身体に障がいのある方のために工夫されているところを探す活動を行い、町内の施設を調査していく際の視点を明らかにする。そして、自分が調べたい課題ごとにグループに分かれ、そのグループで誰がどこの施設を調査するかを決めて、調べたことをグループの友達に伝えるという目的意識をもてるようにする。そして、各施設ではどんな工夫がされているか、利用者はどんな思いをもっているかを調べ、それをグループで交流することで課題を追究していきたい。

「まとめる・ひろげる」「ふりかえる」段階では、すべての人が安心して暮らせるみんなにやさしい町にするために自分たちにできることは何かを考え、まとめたことや浄法寺の町をよりよくしたいという思いを地域のユニバーサルデザイン推進市民団体や社会福祉協議会の方々に伝える。そして、これらの活動を通して考えた町や人に対するやさしい気持ちをどういう方法で表現するか、自分たちにどんなことができるかを考え実践に結び付けていきたいと考える。

（２） 表現活動について

「つかむ」「みとおす」段階において、障がいのある方の話の意図を捉え、聞き取ったことをメモしたり、質問したりする活動を行う。また、「やってみる」段階での各施設への取材活動では、インタビューを行い、情報を収集する活動を組む。「まとめる・ひろげる」段階では、地域団体の方へ提案する際、模造紙や新聞、ポスターなど効果的に伝えることができる方法を考え、やさしい町にするために自分たちが考えた内容をしっかりと伝えられるようにする。

3 単元の指導計画

（１） 単元の目標

◎高齢者や身体に障がいのある方など様々な立場の人から話を聞いたり、体験したりする活動を通して課題をもち、不便に感じていることや思いを知り、すべての人にとって暮らしやすいやさしい町にするために、自分たちにできることは何かを考え、実践することができる。

○育てようとする資質・能力

<課題設定能力>

- ・身体に障がいのある方の話やキャップハンディ体験から、感じたことや考えたことをもとに、課題を設定することができる。

<課題追究能力>

- ・課題解決に向け、どんなことをどんな方法で探究していくか計画を立てることができる。
- ・体験活動やインタビュー、本やインターネットの資料から必要な情報を集め、整理・分析してまとめ、課題解決を図ることができる。

<コミュニケーション能力>

- ・公共施設を利用している人にインタビューをして、地域の人と関わりをもつことができる。
- ・友達と協力して課題を解決したり、地域団体への提案内容を話し合ったりすることができる。

<表現・発信の能力>

- ・やさしい町にするために自分たちが伝えたい内容を資料にまとめ、地域団体の方へ提案したり、実

践したりすることができる。

<自己評価能力>

- ・自分の考えが変わったり深まったりしたことに気付き、地域の人のためにできることを考え、これからの生活に生かそうとすることができる。

(2) 単元の指導計画 (28時間)

過程	主たる活動 <評価規準>	支援
つかむ (8)	<p>○3年生の国語科の学習を思い出し、障がいのある人に役立つものについて関心をもつ。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盲導犬, 点字, 車いす, 白杖などがどんな人の役に立つものなのか考える。 <p>○浄法寺町のどんなところがやさしいのかを話し合う。(1)</p> <p>○身体に障がいのある方を招き, お話を聞く。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バリアフリー (BF), ユニバーサルデザイン (UD) の考え方を学ぶ。 <p>○キャップハンディ体験をする。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・点字体験 ・車いす体験 ・高齢者体験 ・白杖体験 <p>○体験から感じたことや気付いたことを基に課題を立てる。(1)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>身体に障がいのある方の話やキャップハンディ体験から, 感じたことや考えたことをもとに, 課題を設定している。</p> <p style="text-align: right;"><課題設定能力></p> </div> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>浄法寺町がすべての人にやさしい町になるためにはどうしたらよいか提案しよう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・「点字」「白杖」「車いす」などの写真を提示したり, パラリンピックで活躍している選手の映像を見たりして, 関心をもてるようにする。 ・町には, 障がいのある方以外にも高齢者や妊婦, 小さい子どもなど, 様々な人が暮らしていることに焦点をあてる。 ・障がいのある方や家族の介護をしている方を招き, 体験談を聞き, 現状を知ることができるようにする。 ・「点訳の会」や「社会福祉協議会」の方に来ていただき, 点字, 車いす, 白杖, 高齢者体験をして, 苦労や不便さの理解を図る。 ・浄法寺町がすべての人にとってやさしい町なのかを検証し, 地域団体の方々にはやさしい町づくりの提案をすることを伝え, 意欲を持てるようにする。
みとおす (1)	<p>○課題について, 調べる視点を個人で決め, どのような方法で追究していくか計画を立てる。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ課題の子ども同士でグループを作り, 誰がどの施設を調べに行くか, 分担を決める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>課題解決に向け, どのようなことをどんな方法で探究していくか計画を立てている。</p> <p style="text-align: right;"><課題追究能力></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・町の人がよく利用する町内の施設のうち, どこを調査したいかを聞き, 予想される以下の6つの施設には事前に連絡しておく。 <p>◇浄法寺文化交流センター ◇郵便局</p> <p>◇カシオペアセンター ◇デイサービス</p> <p>◇浄法寺町体育館 ◇ほほえみ工房</p>

<p>やってみる(8)</p> <p>(本時17/28)</p>	<p>○身近にあるBFやUDについて調べる。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内や学校の周りのBFやUDを見つける。 <p>○各施設のやさしさ(BF・UD)やそこに関わる人の思いを調査する。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ施設に行くメンバーを確認し、インタビューをする内容を考える。 ・浄法寺の各施設を見学し、BFやUDを見つけたり、利用者や施設の職員にインタビューをしたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>公共施設を利用している人にインタビューをして、地域の人と適切に関わりをもっている。 <コミュニケーション能力></p> </div> <p>○それぞれの立場の人にとってどのような支援の方法があるか調べる。(2)</p> <p>○調べてきたことをグループで交流する。(1)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・浄法寺町の施設で発見したやさしさや気付いたことを伝え合い、さらにやさしさを広げるにはどうしたらよいか考える。(本時)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>インタビューや本、インターネットの資料から必要な情報を集め、整理・分析してまとめ、課題解決を図っている。<課題追究能力></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・BFやUDを見つけるだけでなく、設備ではカバーできないことをどのようにフォローしているかについても調べてくるように促す。 ・施設で見つけたBFやUDだと思うものを写真に撮り、気づいたことやインタビューをして分かったことをメモしてくることを確認する。 ・本やインターネットを使って調べ学習をする時間を保障する。 ・思考ツールを用いて、調査したことをグループの友達に伝えたり、さらにやさしさを広げる手立てを話し合ったりできるような場の設定をする。 ・調べたことや考えたことを地域団体の方々に提案するために、どんな視点で話し合えばよいか考えることができるようにし、やさしい町づくりに参画していくという意識が高まるようにする。
<p>まとめる・ひろげる(10)</p>	<p>○浄法寺町がさらにみんなにやさしい町になるにはどうしたらよいかを考える(1)</p> <p>○伝えたいことをどのようにまとめるかを考え、提案する資料を作成する。(5)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>友達と協力して課題を解決したり、地域団体への提案内容を話し合ったりしている。 <コミュニケーション能力></p> </div> <p>○まとめたことを地域団体の方々に提案する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>やさしい町にするために自分たちが伝えたい内容を資料にまとめ、地域団体の方へ提案したり、実践したりしている。<表現・発信の能力></p> </div> <p>○自分たちにできることを考え、実践する。(3)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・やさしい町にするためには、設備だけでなく、人との関わりも大切であることを踏まえる。 ・自分たちが伝えたいことを提案するには、模造紙や新聞、ポスターなどでまとめる方法のうち効果的に伝わるものはどれかを考え、選ぶようにする。 ・資料を示すタイミングや資料を見てもらうための間の取り方などに気をつけて、分かりやすく提案できるようにする。
<p>ふりかえる(1)</p>	<p>○活動を振り返り、学習への取り組みや学んだことについて話し合う。(1)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>自分の考えが変わったり深まったりしたことに気づき、地域のためにできることを考え、これからの生活に生かそうとしている。 <自己評価能力></p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までの活動を振り返り、自分ができるようになったことや生活に生かせる力を考える。 ・自分の町に関心をもてるようになった自分の成長を自覚できるように書く時間を設ける。

4 本時の指導（17／28時）

（1）目標

- ・体験活動や調べ学習で見つけた各施設の工夫や利用する人の声を共有し、利用する人にとってのやさしさに気づき、さらにやさしさを広げるためにはどうしたらよいかを考えることができる。

（2）本時の展開

過程	学習内容と活動	教師の支援
導入 (5分)	1 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">浄法寺町の施設で発見したやさしさや気付いたことを共有し、さらにやさしさを広げるにはどうしたらよいか考えよう。</div>	・考えたことを地域団体の方々に提案するために、どんな視点で話し合えばよいか考えることができるようにし、やさしい町づくりに参画していくという意識が高まるようにする。
展開 (33分)	2 グループで公共施設の BF や UD について見つけたことや気付いたことを交流する。 ・自分の調べた施設のやさしい点と利用する人や施設の職員の方にインタビューをして分かった内容を伝える。 ・自分が調べた施設と他の施設との共通点や相違点に気づき、思考ツールを使って整理する。 3 それぞれの立場の人の視点に立ち、どこにいても暮らしやすいやさしい町になるためにはどうしたらよいかを話し合う。 ・考えられる支援の仕方などを思考ツールに書き込む。	・思考ツールを用いて、調査したことをグループの友達に伝えたり、さらにやさしさを広げる手立てを話し合ったりできるような場の設定をする。 ・どんな人にとっての BF なのか、どうして UD だと思ったのかなど根拠をもって友達に伝えられるようにする。 ・前時までに調べた支援の方法などをメモしたワークシートを活用できるようにする。 ・思考ツールで明らかになった BF や UD の足りない部分やインタビューをしてわかった町の人の困り感からどういう手立てを講じればよいかを考えられるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">グループで出された意見を比較したり分類したりしながら整理し、BF や UD の足りないところはどうしたらよいか考えている。 ＜課題追究能力＞</div>
終末 (7分)	5 本時の振り返りをする。 ・自分の調べてきたことを友達に伝えることができたか、やさしい町になるための手立てを考えたことができたかについて振り返る。	・自分たちが考えるやさしさを広げる方法を、どのように伝えていくかを考え、次時の活動につなげる。

（3）評価規準

	ねらいを達成している児童	努力を要する児童への支援	評価方法
課題追究能力	・グループで出された意見を比較したり分類したりしながら整理し、BF や UD の足りないところはどうしたらよいか考えようとしている。	・自分が見つけた BF や UD と同じものが他の施設にもあったかチェックし、ないところはどうしたらよいか、自分なりの考えをもてるようにする。	・観察 ・ワークシートへの記述

